



大地

目指す子どもの姿
自分で考え 自分で決めて
自分で行動する子

2025
SEPTEMBER

9

変わらない本質と、時代に合わせた変化

足寄町立足寄小学校長 池田 圭子

澄みきった青空のもと、校庭からは元気いっばいに駆け回る子どもたちの声が響いています。季節はすっかり秋を迎え、学習や行事に落ち着いて取り組める時期となりました。学校では、10月に行われる学習発表会に向けて各学年、練習がはじまり、子どもたちも教職員も生き生きと活動しています。

そのような中、職員室で教員が自分が小学生だったころの学芸会（学習発表会）の話をしていました。学習発表会を通して子どもたちに培われる力は、いつの時代も変わらないという話です。

「不易流行」。日本の俳諧師である松尾芭蕉が提唱した考え方です。これは、「いつまでも変わらない本質的なもの（不易）」と、「時代とともに変化していく新しいもの（流行）」を組み合わせることで、物事はより豊かになるという教えです。この考え方は、学校の教育活動においても、まさに通じるものです。伝統を重んじつつ、時代のニーズに応じた新しい取り組みを取り入れることで、学校はより良い教育となります。

学校の不易とは何か

学校にとっての「不易」、すなわち、どんなに時代が変わっても変えてはいけない核となる部分とは何でしょうか。それは、子どもたち一人ひとりの「命と人権を尊重する」という教育の根幹です。

例えば、いじめや差別のない学校づくり、お互いの違いを認め合う心、そして何よりも自分自身や他者の命を大切にすること。これらは、デジタル化が進もうと、社会がどんなに変化しようと、決して揺らいではならない私たちの使命です。また、教師と児童生徒、児童生徒同士、そして保護者の皆さんと築く「信頼関係」も、決して変わることはない大切なものです。人と人が直接関わり、協力し、時にはぶつかり合いながら成長する経験は、学校という場でしか得られない「不易」な価値と言えるでしょう。



「流行」を未来のヒントに

時代とともに変化する「流行」を柔軟に取り入れることも、学校をより良くしていく上で欠かせません。

現代の学校現場における最も顕著な流行の一つが、ICT教育の進化です。かつて黒板とチョークが中心だった学びの場に、今やタブレット端末やオンライン学習ツールは欠かせないものとなりました。理科の授業で太陽系の動きをシミュレーションアプリで学んだり、英語の授業で海外の生徒とオンラインで交流したりすることは、子どもたちの学びをより深く、そして世界へと広げてくれます。

また、探究学習やプロジェクト型学習といった、子どもたちが主体的に学びに向かう新しい学習方法も、時代の「流行」です。ある学校では地域の問題をテーマに、グループで解決策をプレゼンテーションする探究学習に取り組んでいます。これにより、子どもたちは単に知識を詰め込むのではなく、自ら課題を見つけ、解決する力を養うことができます。

さらに、学校と地域の連携も今の時代を生きる上で欠かせない「流行」です。地域の農家と協力し、子どもたちが螺湾ブキ農家で体験することや酪農体験、工場見学等を行うことは食のありがたさや地域とのつながりを肌で感じさせてくれる貴重な機会となります。

「不易」と「流行」の調和

不易と流行は、決して相反するものではありません。むしろ、お互いを高め合う関係にあります。変わらない教育の本質という「幹」がしっかりしているからこそ、ICT教育や新しい学習方法という「枝葉」を豊かに広げることができるのです。

この「不易流行」の考え方を大切にしながら、子どもたちが安心して学び、そして未来を生き抜く力を育む学校であり続けたいと願っています。そして、学習発表会でも「不易流行」を大切に取り組んで参ります。

足寄小学校が、変わらない温かさを持ちながら、常に新しい風を取り入れる場所であるように。そして、子どもたちには、どんな時代になっても人として大切にすべきものを見失わず、同時に新しい時代を切り拓いていく勇気を持った人に育ってほしいです。このような子どもの育成は、保護者の皆様、地域の皆様、そして学校の三者がみんなで関わり合うことが重要です。足寄小学校の子どもたちにより一層のご支援とご協力をよろしくお願いいたします。



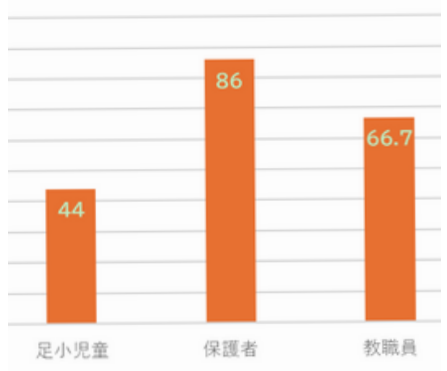
📌 令和7年度前期学校評価アンケートより

認識にギャップ

学校評価アンケートへのご協力、たいへんありがとうございました。アンケートの中で、「自分には良いところがある」と答えた児童は44%、一方で保護者は86%が「子どもには良いところがたくさんある」と回答されました。また、教職員は66.7%が「子どもの良さを認め、励まし、自己肯定感を高める取組をしている」と回答しています。

この結果から見てくるのは、子ども自身の感じ方と、大人の見方との間にギャップがあるということです。子どもたちの自己肯定感を高め、未来に向けて明るく前向きに歩むことができるよう今一度、立ち止まって考えてみませんか。

自己肯定感に関する認識の比較



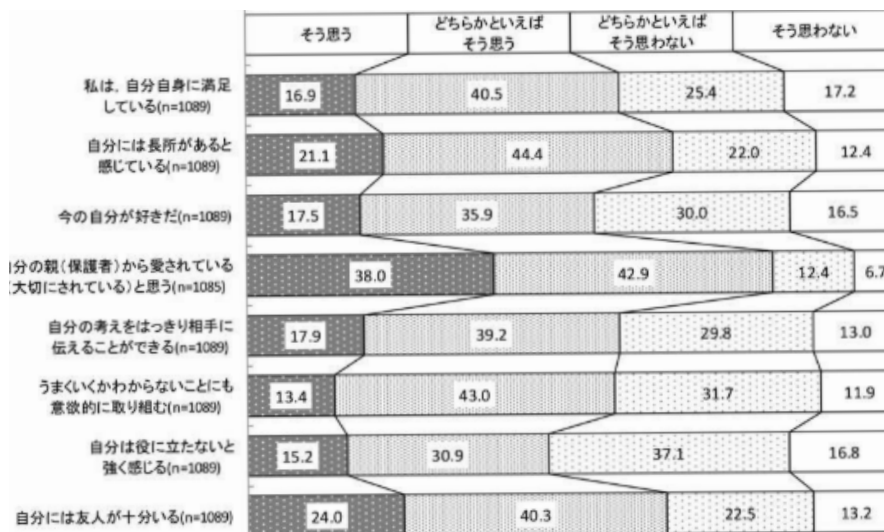
📌 子ども・若者の意識調査より

自分の良さに気づこう！

このギャップは、子どもたちが自分の良さに気づく機会がまだ十分ではないことを示しているのかもしれません。

子ども家庭庁が実施した「子ども・若者の意識調査」でも、日本の子どもたちは「自分には長所がある」と感じている割合が65.6%と、諸外国と比べて低い傾向が見られました。また、「今の自分が好きだ」と答えた割合も53.4%にとどまっています。

これは、子どもたちが日々の生活の中で、自分の価値や存在意義を実感する機会が少ないことを示唆しています。



「子ども家庭庁「我が国と諸外国の子どもと若者の意識に関する調査（令和5年度）」



自己認識（日本）
「子ども家庭庁「我が国と諸外国の子どもと若者の意識に関する調査（令和5年度）」より

📌 自己肯定感を育てよう

「自分っていいな」と思える瞬間を

私たち大人ができることは、子どもたちの小さな頑張りや思いやりに気づき、言葉にして伝えることです。「あなたのここが素敵だね」「こんなところ、がんばってたね」と、日常の中で温かいまなざしを向けることが、子どもたちの心に「自分っていいな」という感覚を育てていきます。

学校でも、子どもたちの良さをを見つけ、認め合う活動を大切にしています。ご家庭でも、ぜひお子さんの「いいところ探し」をしてみてください。きっと、たくさんの輝きが見つかるはずです。



認め合おう！

自己肯定感UPの工夫（例：家族編）

★「いいところメモ」「ほめノート」をつくる

素敵な行動や発言を記録し、週末に家族で一緒に振り返る

★「ありがとう」を言葉で伝える

日常の小さなことにも感謝を言葉で伝え、役に立っている実感をもたせる

★「できたこと」を振り返る

1日の終わりにできたことを振り返り、自信につなげる

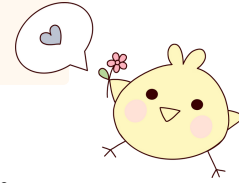
★失敗しても「チャレンジしたこと」をほめる

結果よりも挑戦したことを認め、挑戦する姿勢を育む

★家族で「いいところ言い合いタイム」をつくる

週に1回家族の良いところを出し合う時間をもつ

これらの取組は、親子のコミュニケーションを深めるだけでなく、子どもが「自分って大切な存在なんだ」と感じるきっかけになります。学校と家庭と一緒に、子どもたちの自己肯定感を育てていけると素敵ですね。一緒に取り組んでいきましょう。よろしくお願いいたします。



活動を通して

見つけよう！

★キラリ★と光る瞬間

毎日の歯磨きが、未来の笑顔をつくる！

歯磨き【夏休み歯磨きカレンダーの取組】

学校だより6月号で本校の児童の健康課題の一つに「口の中の清潔さ」があるということを述べました。歯の健康は全身の健康にもつながりますし、健康寿命とも関係性が深いです。

夏休み中、歯磨きカレンダーと歯の汚れ染め出しを通して、子どもたちの歯の健康について家庭でも意識していただく機会を設けました。取組へご理解とご協力、ありがとうございました。

その中で、1日3回（朝・昼・夜）歯磨きをしている児童は少数であり、朝晩の2回が多く、残念ながらまったく磨かない児童も見受けられました。

歯は一生使う大切なものです。

毎日の歯磨きは、虫歯や歯周病を防ぐだけでなく、食べる楽しみや笑顔の自信にもつながります。特に成長期の今、正しい習慣を身につけることが、将来の健康への大きな一歩となります。

ご家庭でも、ぜひ「食べたら磨く」を合言葉に、親子で歯磨き習慣を見直してみませんか？

小さな積み重ねが、子どもたちの健やかな未来を支えます。

児童の健康や体、成長に関する相談等がありましたら、遠慮せず、学校へご連絡ください。（窓口：守内養護教諭）

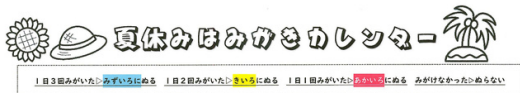
色でわかる 歯磨きのコツ！

歯の汚れ染め出しは、歯に残ったプラーク（歯垢）を色で見えるようにすることで、磨き残しの場所を自分で確認できる活動です。

普段の歯みがきでは「ちゃんと磨けているつもり」でも、実際には磨き残しがあることに気づくきっかけになります。

この体験を通して、子どもたちは「どこをどう磨けばいいのか」「どんなふうに磨くときれいになるのか」を学び、歯みがきへの意識が高まります。

また、保護者の方にも、日々の歯みがき習慣を見直すきっかけとなり、親子で歯の健康について話し合う良い機会になります。冬休みに取り組む予定です。家族と一緒に「歯磨き」してみませんか。



そめだしチェック！

そめだしをして、赤くなった歯を、赤えんぴつでぬろう！

〇そめだしをして、気づいたことや、感想を書いてね

夏休み終わりに学校へ持ってきてください



通知表は子供の成長を見つめる“窓”



「できたこと」を見つけて 「これからの力」につなげましょう

令和7年度前期の学習や生活の様子をまとめた通知表をお渡します。

通知表は、子どもたち一人ひとりの「できるようになったこと」「がんばったこと」「これからの課題」が記された、成長の記録です。

学校生活の中で、子どもたちは少しずつ「自分で考え、自分で決めて行動する力」を育てています。これは、学力だけでなく、人との関わりや日常の選択の中で培われる、大切な生きる力です。通知表を通して、お子さまの“今”を見つめ、これからの“伸びしろ”に目を向けていただければと思います。

通知表は、子どもたちの前期のがんばりや成長の記録です。

通知表の家庭での活用のポイント

- ①「できたこと」「がんばったこと」を一緒に見つけましょう
- ②「どうしてできたのか」「どうすればもっとよくなるか」を話し合いましょう
- ③結果よりも過程を大切に
- ④通知表は“未来へのヒント”

評価だけに目を向けるのではなく、通知表をきっかけに、親子で前向きな対話をしていただけると嬉しいです。よろしくお願いいたします。



東京の学生さんがやってきた ～武蔵野大学プレ実習～

9月2日（火）、東京の武蔵野大学の2年生6名と4年生2名が実習にきました。教師を目指す8名の皆さんは学級に1名ずつ入り、子どもたちと学習したり、休み時間過ごしたりしました。はつらつとした学生さんと楽しく過ごした子どもたちでした。



読書の秋、○○の秋



秋の風が心地よく感じられる季節となりました。「○○の秋」と言われるように、秋はさまざまなことにじっくり取り組むのにぴったりの季節です。「読書の秋」には、物語の世界にふれたり、知識を広げたりする楽しさがあります。

本を読むことで、子どもたちは想像力を育て、言葉の力を身につけ、自分の考えを深めることができます。

また、「○○の秋」は、運動の秋、芸術の秋、挑戦の秋...と、自分らしい秋を過ごすことができる季節でもあります。

学校では、日々の学習や行事を通して、「自分で考え、自分で決めて行動する力」を育てることを大切にしています。

自分の気持ちや考えを大事にしながら、友だちと協力したり、新しいことに挑戦したりする姿が、あちこちで見られるようになってきました。

子どもたちは「自分で選び、自分で動く」経験を重ねることで、心も体も大きく成長していきます。

この秋、ぜひご家庭でも「○○の秋」をテーマに、親子で読書を楽しんだり、運動や創作活動に取り組んだりしてみてください。



いざという時に！ ～シェイクアウト訓練～

9月1日は防災の日。地震への備えを再確認し、地震が起きた時の正しい初動対応を身につけるため、日本全国各地でシェイクアウト訓練が行われています。本校でも9月1日にいざという時に備え、訓練を行いました。



地震はいつ起きるか分かりません。ですから、「訓練」はとても大切です。「いざという時に、命をまもることができるよう」に訓練をしていきます。

「いざという時に備え」

みんなで防災意識を高めましょう。

10月の行事予定

1日（水）	交通安全の日 あいさつ運動 あゆみ(通知表)配付 学習発表会座席抽選 職員会議
10日（金）	読み聞かせ（3年）
13日（月）	スポーツの日
16日（木）	学習発表会（1・3・4年）
17日（金）	学習発表会（2・5・6年）
22日（水）	移動図書
24日（金）	児童会
28日（火）	視力検査（1・2年）
29日（水）	視力検査（3・4年）
30日（木）	視力検査（5・6年）

